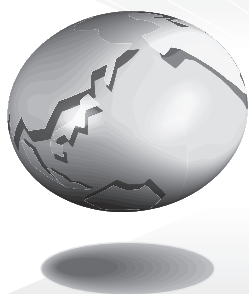


国際研究集会派遣報告



2022 年度 国際研究集会派遣会員報告書

派遣集会：Radiological Society of North America (RSNA)

開催場所：Chicago, United States

開催期間：November 27-December 1, 2022

RSNA に初めて参加して

派遣員 大澤充晴 愛知医科大学病院中央放射線部

はじめに

このたび、2022年11月27日～12月1日に米国イリノイ州シカゴにて開催された第108回北米放射線学会 (Radiological Society of North America: RSNA) に、2022年度国際研究集会派遣会員として参加させていただいたので報告する。

発表内容

私の発表題目は、“Investigation of metal artifact reduction applications: comparing four different angiographic systems”であり、Scientific poster presentation として採択された。

本研究は四つのメーカーの血管撮影装置に搭載された、コーンビームCTの金属アーチファクト低減アプリケーション (metal artifact reduction: MAR) に関して、アーチファクト発生源である高吸収体の濃度値に焦点を絞り、比較・検討した内容である。解析方法は、Gumbel分布を用いた極値統計解析を用いた。その結果、各メーカーのMARは、アーチファクト低減処理がかかる濃度値 (閾値) がそれぞれ異なっていた。そのため、使用する塞栓物質の濃度値に応じて、装置を使い分けることも一つの選択肢になると考える。

発表時は海外の診療放射線技師の方からコメントをいただき、日本オリジナルのGumbel評価法について“Very interesting”と言いながら、Method部分のスライドを写真に撮られていたことが一番印象に残っている。

RSNA に参加して

RSNAは世界最大の放射線医学に関する学会で、今年も5万人以上の参加者が集まった。演題数は3000題以上



Photo 聴講者へのプレゼン風景

あり、今年のCutting Edgeに選ばれたテーマ (1) Molecular Imaging, (2) Photon Counting CT, (3) Artificial Intelligence, (4) Long COVIDに関する演題が多かった。また、企業の展示ブースも、出展面積、出展社数ともに世界最大であり (600社以上)、昨年同様AI関連の新製品が多く、大変興味深かった。

また、口演セッションを拝聴して感じたことは、人種、価値観、立場などがそれぞれ違っていても、「患者のために何ができるのか」という同じ目的とゴールに向かって、それぞれを尊重しつつ、熱く議論していたことにとても感銘を受けた。今回の経験を糧に、診療放射線技師として他職種と力を合わせ、よりよい医療

を目指して今後も一層、臨床と研究に精一杯励んでいきたいと思う。

謝 辞

今回 RSNA2022 に参加するにあたり、助成金は渡航

費用として使用させていただきました。助成いただきました日本放射線技術学会の皆様には厚く感謝申し上げます。また、国際学会での発表という貴重な経験をさせていただき、愛知医科大学病院中央放射線部の金田技師長はじめ、一同に心から感謝いたします。